

Focus 米FOMCレビュー：利上げはペースから幅重視へ。あと2回程度の利上げ議論も

■ 今回FOMCのキーポイント

- FOMC 01** +0.25%pt利上げ、政策金利幅は4.5-4.75%へ
 > 4.25-4.5%から引き上げ(図1)
- FOMC 02** 焦点は、利上げのペースから幅へ移行
 > (利上げの)ペース⇒幅⇒打ち止め、持続へ
- FOMC 03** あと2回程度の利上げを協議
 > @0.25%pt × 2回だと、終着点は5.25%か

1/31-2/1 開催された年最初の米連邦公開市場委員会(FOMC)、日本時間2日未明に結果が公表されました。

■ 市場の反応は株高、金利低下、ドル安

FOMC後の市場の反応は好意的、S&P500株価指数は4,100ptを超え、テクニカル面で重要な節目を上抜けました(図2)。米10年国債利回りは3.4%、政策金利との連動性高い2年国債利回りも4.10%近傍と大きく低下しました。また、ドル円はドル売り加速、\$1=129円割れの展開となりました。

■ 利上げはペースから幅へ。年内利下げは否定

今回のFOMCは総じて事前予想の範囲内に終わりました。

既に多数の連邦準備理事会(FRB)幹部が支持していた通り、今回は0.25%ptの利上げ実施と、昨年12月FOMCにおける+0.50%ptの利上げから、その幅を一段縮小させました。

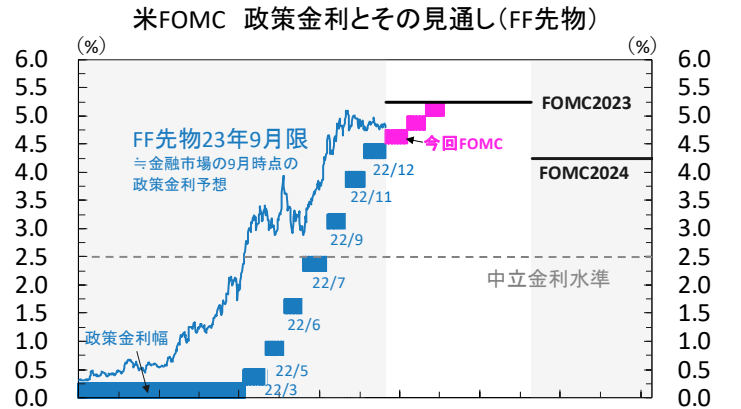
また声明文は、比較的大きな変更が2点ありました。一つはインフレ評価。依然勢いを持つが幾分緩和したとしました。そして、もう一つは利上げ決定議論の軸。利上げの“ペース”から“幅”重視の姿勢への変化を示唆しました。

記者会見では、パウエルFRB議長は、インフレの持続的低下を確信するより多くの材料が必要である事、そのためにも景気抑制的な金融環境の持続を要し、それにはあと2回程度の利上げの議論が必要、等の見解を示しました。また、米景気が見通し通りとなれば年内利下げは適切でない、と金融市場が予測する「年内利下げ」を明確に否定しました。

■ サービス価格の持続的軟化が利上げ休止には必要に

FRBはインフレ軟化を認めるもエネルギー価格を除くと高止まり、これではファイティング・ポーズを崩せません(図3)。賃金など依然勢いあるサービス価格の持続的低下が、利上げの拳を下す条件になるとみえています。(徳岡)

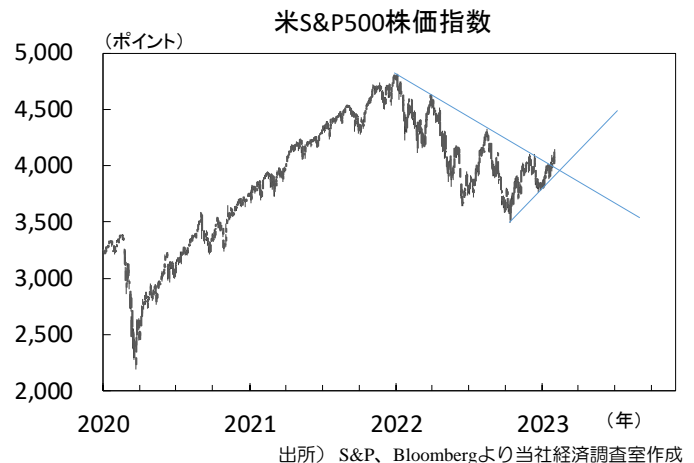
【図1】政策金利は4.5-4.75%へ



注) FF先物(市場参加者の予想する将来の政策金利水準とした)の直近値は2023年2月1日。黒直線(FOMC2023/FOMC2024)は、2022年12月時点におけるFOMC参加者の政策金利(各年末)予想(中央値が示唆する上限値)。無印ピンク色はパウエルFRB議長の今会見発言から推測される利上げ軌道。

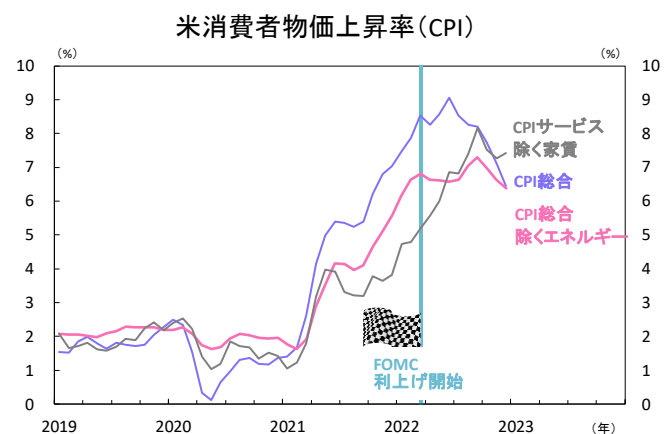
出所) FRB、Bloombergより当社経済調査室作成

【図2】S&P500は三角持ち合いを明確に上抜け



出所) S&P、Bloombergより当社経済調査室作成

【図3】サービス価格(除く家賃)は再加速の兆候も



注) 直近値は2022年12月。

出所) Bureau of Labor Statisticsより当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘を使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会